研究紹介

PRESS RELEASE

岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

平成 31 年 3 月 29 日

岡山大学病院乳がん治療・再建センター設立 10 周年
～さらなる QOL の向上を目指して～

◆発表のポイント

・乳がん患者の生存率は向上しており、それに伴って長期生存者の再発の懸念や生活上の問題に寄り添い、QOL (Quality of Life)を高めるニーズも増しています。

・乳房全摘と同時に乳房再建術を施行することにより、乳房を喪失した時期がなく、良好な整容性や QOL を保つことができます。

・岡山大学病院乳がん治療・再建センターでは、乳がん術後の QOL 向上を目指してリハビリの有効性、乳房再建後の下着の選択、皮膚切開と整容性の関連などの臨床研究を行っています。

岡山大学病院乳がん治療・再建センターは乳腺・内分泌外科、形成外科をはじめ看護師、薬剤師、リハビリなどのメディカル・スタッフが一体となって「患者および家族の皆様の満足」を目指して総合的なチーム医療を実践するために 2008 年 5 月に設立されました。なかでも特徴的なのは乳がん体験者であるピア・サポーターや再建後の下着アドバイザーのブレストカウンセラーもチームの一員となっていることです。

乳がんは年々増加している疾患ですが、検診の普及や抗がん剤の開発によって生存率は向上してきています。長期生存者も多数みられるようになってきており、術後の生活の満足度、QOL を向上するための乳房切除と同時に行う乳房再建術は、整容性の面から大変有効な手術療法です。本センターにおける乳房再建術後のリハビリ、再建乳房の下着の研究などの結果により、長期的にみた満足度も得られており、乳房再建術は乳房全摘術を余儀なくされる患者さんに広く普及したい手術手技と考えています。

■発表内容

＜背景＞

現在乳がんは年間 8 万 7 千人の女性が罹患(女性 11 人に 1 人／2015 年)し、1 万 3 千人が亡くなると報告されており、年々増加している疾患です。ただ、乳がん検診の普及や抗がん剤の進歩により、生存率は年々向上してきており、長期生存者も多数みられるようになりました。従ってそのがんサバイバーシップ（注１）、すなわち長期生存における再発への恐怖、ライフスタイル、就学・就労の問題、経済的問題などが重要な問題となってきています。また乳がんの手術療法は乳房全摘術から乳房を一部だけ切除する乳房温存療法へ大きくシフトしてきましたが、やはり大きな腫瘍径で見つかった人は乳房全摘術を余儀なくされることになります。

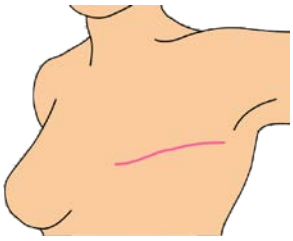
乳房全摘術は乳房温存術と比べると整容性や QOL において大きく劣ります。従ってそれらを向上するために自家組織や人工物を用いた乳房再建術が行われるようになり、2013 年よりシリコン

による乳房再建術も保険収載されました。われわれは乳がん患者さんの予後を損なうことなく、整容性を求めるために乳腺・内分泌外科と形成外科が一体となって乳房全摘術とともに乳房同時再建を行う「乳がん治療・再建センター」を設立しました。センター化したのは大学病院の中では本邦初であり、センター設立からの 10 年間で培われた、これまでの業績や臨床試験の結果をご報告します。

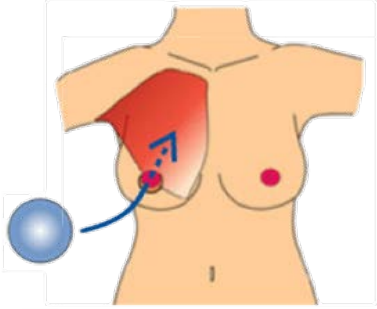
＜研究内容、業績＞

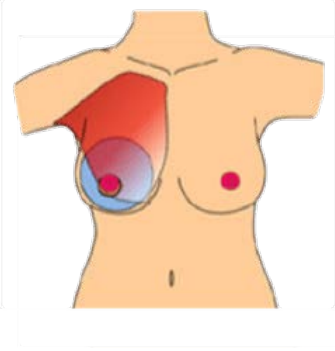
岡山大学病院乳がん治療・再建センターは 1. 総合的な乳がん医療を行う、2. 科学的根拠に基づいた診断、治療を行う、3. 整容性を求めた乳房再建術を行うということを目標として 2008 年 5 月に設立されました。乳腺・内分泌外科や形成外科の医師をはじめ看護師、薬剤師、リハビリなどのメディカル・スタッフとともに、患者および家族の皆様の満足を目指して総合的なチーム医療を実践しています。本センターの特徴として、乳がん体験者が患者さんの悩みに対して経験的なサポートをするピア・サポーター（注２）や再建乳房に対する下着アドバイザーのブレストカウンセラーもチームの一員として参加しています。

これまでに皮膚切開と整容性の関連、再建乳房患肢の術後リハビリの効果、再建乳房に対する下着の効果の研究などを行い、発表してきました。特に再建乳房に対する下着の研究は岡山大学独自のもので、岡いずみブレストカウンセラーが手術直後より再建乳房の採寸などに介入し、患者さん個々にフィットした下着を作成して、それを着用してもらうことによりすぐれた満足度が得られています。また乳がんの啓蒙活動として、一般市民に対しては毎年市民公開講座あるいはピンクリボン岡山開催に併せて県民公開講座を行い、乳がん検診の普及ならびに乳房再建術の有用性を周知するよう努めています。



乳房全摘術





シリコンによる乳房再建術

なお、乳房再建術後のブラジャ―着用時の満足感向上に関する研究は、論文（Improving women’s comfort in wearing a brassiere after breast reconstruction: A qualitative study）として発表予定です。

＜展望＞

乳がんは早期発見すれば治癒に結び付けることも可能ながんです。また乳房再建術は保険に認可された手術療法で整容性に優れており、予後を損なうこともないので対象になる患者さんにはぜひ勧めたい手術方法です。今後も、乳房再建術の普及ならびに乳がん術後の長期のサバイバーシップを見据えた医療に取り組んでいきたいと考えています。

＜用語解説＞

注１：がんサバイバーシップ

治療後の生活において長期的合併症や再発への恐怖、ライフスタイル、就学・就労の問題、経済的問題などについてがんサバイバー本人だけでなく、その周囲の人々や社会全体が協力して乗り越えていくという考え。

注２：ピア・サポーター

ピア＝仲間、同輩、サポーター＝支持する人。病気とうまく付き合いながら、社会復帰を果たしているピア・サポーターが術前・術後の患者（ピア）を訪問し、その社会復帰の手助けをするボランティア（活動）のこと。

＜略歴＞

1956 年岡山県生まれ。1982 年岡山大学医学部卒業。国立病院機構四国がんセンターを経て 1994 年岡山大学医学部第二外科。2010 年岡山大学病院 乳腺・内分泌外科教授。専門は乳がん、甲状腺疾患。

＜お問い合わせ＞
岡山大学病院　乳腺・内分泌外科
教授　土井原　博義
（電話番号）086-235-7265
（FAX）086-235-7269

Japan. Committed to SDGs
岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
3 すべての人に健康と福祉を

岡山大学は、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」を支援しています。